

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103854
法人名	医療法人ビハーラ藤原胃腸科
事業所名	グループホーム アショカ
所在地	松山市南吉田町9 6 4番地1
自己評価作成日	平成22年11月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・本人・ご家族の希望があればターミナルケアもしており、その時まで本人らしく過ごせるように支援しています。</p> <p>・希望される方は、夜間入浴ができ、一人ひとりの生活リズムが大切にされています。</p> <p>・スタッフは私服での勤務で、自宅にいるようなリラックスできる雰囲気です。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>回覧板で知った地域の掃除には、職員が参加されている。地域の盆踊り時には、利用者も参加して、地域の方と一緒に踊られた。ボランティアの方が来られて、草引き等をして下さっている。又、ちぎり絵や折り紙等のボランティアの方には、利用者とかかわりながら、利用者にとって、どのような材料や作品作りが適するかということも分かってもらいようにされており、楽しく作業ができるように工夫をして下さっている。事業所の中庭で行う夏祭りでは、地域の方が利用者に浴衣を着せて下さり、一緒に輪になって炭坑節を踊り楽しく過ごされた。理事長や管理者は、地域や中学校で紙芝居を使う等して、認知症を知ってもらう為の講座を続けておられる。</p> <p>ユニットに一名の看護師を配置され、法人の医師は24時間、携帯電話がつながるようになっている。ご家族は、宿泊される等、最期の時を利用者と共に過ごされている。運営推進会議に看取りの話題があった時、利用者から「自分達にも説明してほしい」と要望があった。「利用者にも説明をして、終末期の希望があれば聞いていきたい」と管理者は話されていた。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム アショカ

(ユニット名) 月輪

記入者(管理者)

氏名 高橋 正子

評価完了日 22 年 11 月 1 日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念行動指針をスタッフで作成し、共有したり、目標に取り入れ、実践振り返りが出来ている。	理念は、職員全員で目指すケアサービスのあり方を示されているが、地域密着型サービス事業所として、地域の中で利用者が暮らしていけるような支援に向けて、事業所でどのように取り組んでいくのかということについても、話し合ってみてはどうだろうか。
			(外部評価) 職員全員で思いを持ち寄って「あなたの笑顔がみたいから あなたらしさを大切に 愛ある暮らしを支援します」と理念を作成して、事務所内の職員が作業する際、目に入るところに掲示されている。職員は、ケア等に悩んだ時には「笑顔、笑顔」と理念に立ち戻りながら取り組むようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) だいぶん近隣とのつきあいも出来つつある。季節の行事に参加したり、来てもらったりしている。アショカでも夏祭りのとき等に近隣に声をかけているが、より地域のために何かできるとよいと思う。	
			(外部評価) 回覧板で知った地域の掃除には、職員が参加されている。地域の盆踊り時には、利用者も参加して、地域の方達と一緒に踊られた。ボランティアの方が来られて、草引き等をしてくださっている。又、ちぎり絵や折り紙等のボランティアの方には、利用者とかかわりながら、利用者にとって、どのような材料や作品作りが適するかということをお分かってもらうようにされており、楽しく作業ができるように工夫をしてくださっている。事業所の中庭で行う夏祭りでは、地域の方が利用者に浴衣を着せてくださり、一緒に輪になって炭坑節を踊り楽しく過ごされた。理事長や管理者は、地域や中学校で紙芝居を使う等して、認知症を知ってもらう為の講座を続けておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議・小学生との交流などで、認知症の紙芝居をしたり、レクチャーをしたりしている。近所との避難訓練などでも、参加した近所の方は、理解をしてくれようとしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議で、お便りを基に、実際に報告している。運営推進会議の内容を議事録で回覧したり、ミーティングのときに伝達し、意見をサービスに活かせるよう努力している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議時に、ボランティアの方を紹介していただいたり、避難訓練に参加していただいている。地域の方が竹を切って来て即席担架の作り方を教えてくださったり、緊急連絡網の作成等、具体的にアイデアを出してくださり、採り入れておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の介護保健課や高齢福祉課と連携をとったり、包括支援センターの職員と情報交換をして、協力を頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターと連携して、認知症サポーター養成講座を実施されており、事業所の2階のスペースを提供して開催することも相談されているところである。法人全体で地域の方々に認知症への理解を深めてもらえるよう、フォーラムや講座を積極的に開催されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体に危険のない限りは、玄関も施錠はしていない。施錠した場合は、記録に残している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、身体拘束について内部研修をされているが、管理者は、職員によって「捉え方に微妙な違いがある」と話しておられた。職員の利用者に対する言葉遣いや接し方で気になるような時には、管理者やユニットリーダーが注意を促すようにされている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  ほとんどのスタッフは、虐待についての研修も受けている。日々のケアの中で、これはどうなんだろうと思われるグレーゾーンなどについては、話し合いながら、支援の方向を考え、防止につとめている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  研修に参加したりして、学んではいるが、まだ利用者がいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  家族からのご意見箱を設置したり、家族会で意見を求めているが、なかなか意見が出てきにくい。もっと意見を出してもらえるような関係づくりに努めたい。  (外部評価)  年2回、家族会を開催して、事業所からの報告をした後、意見を聴くようにされているが「それでいいです」と言われることが多い。事業所関係者は席を外してご家族だけで話し合う時間を設けておられる。	管理者は、ご家族に向けて、職員のケアや外出等の支援について、具体的にアンケートを取ってみることを考えられている。現在、行っている家族会を、今後、行事と抱き合わせて行うことも考えているところであった。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>運営に関しては、代表者と直接話す機会はないが、行事のことなどについては、意見を反映させ、協力も受ける。管理者とは日常的に意見を交換し、内容を検討しながら反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の経験年数によってケアへの理解力も違いがあることから、職員全体が向上するような研修内容や仕組みを作り、取り組まれている。職員は、気付いたことをその場で話し合ったり、管理者やユニットリーダーに相談して実現が可能なことは採り入れ、費用のかかることは検討して実現できるようにすすめておられる。職員は「利用者が喜ぶことを提案していきたい」と話しておられた。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修の参加や法人の研修を設けている。管理者も随時、スタッフに勧めている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に1回は、法人研修がある。リーダー養成研修の受け入れなどで、外部の方が来られ、情報の股間ができる機会がある。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>アセスメント表などから、情報を集めて、利用が始まってから本人の様子を見ながら、生活環境を整えていき、安心できるような関係作りをしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 今だけでなく、以前の話も聞きながら、話をしていく中で、要望も聞きながら、家族との関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要としている支援を家族さんや本人との話し合いから、見極め、支援している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護される一方ではなく、家事などを一緒にしたりして、共に生活しているという関係を築けるよう努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 昔からの情報は家族さんから頂き、今現在の情報はスタッフが家族さんに伝え、本人をささえていく関係が築けている。行事も参加していただいて、本人と家族の絆を大切にしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 日々の関わりの中から、馴染みの人や場所の情報を収集し、その場所に行ったり、コミュニケーションの中で話題にしたり、関係が切れないように、支援に努めている。 (外部評価) 通院や外出時に、知人や親せきのお宅に立ち寄ったり、年賀状や届け物のお礼の電話をする際のサポートをされている。ご本人の希望で墓参りや墓掃除に職員も一緒に行かれたり、亡夫の仏壇に線香をあげに行くこともある。又、ご夫婦で入居されている方は、ともに自宅に戻って1泊されることもある。友人が他のグループホームへ入居されたと聞き近々、会いに行くことを予定している方もいた。廊下には介護度が重度の利用者の車いすを他の利用者が押してあげている写真が掲示されており、管理者は「ともに暮らす利用者同士の関係も大切にしていきたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブルを未然に防いだり、コミュニケーションが、苦手な方には、スタッフが間に入った り、代弁したりと、支援してる。利用者同士が支えあ う場面が見られる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて、電話をしたりしている。度々ではない が、果物を持って、立ち寄ってくれたりする。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 自分の意思を表現できる方については、意志決定でき るよう関わっている。出来ない方についてはカンファ レンスなどで、スタッフ皆で、本人の立場に立って、 いろいろな角度から、検討させてもらっている。ご家 族にも意見を事前に聞いている。 (外部評価) 入居される前に、管理者とユニットリーダーがご自宅 を訪問して、利用者のご家族とお話を聴くようにされ ている。入居後も「かわりすべてが相手を知る材 料」と考えて、ご本人の思いや意向を探ることに努め ておられる。海の近くに住んでいた方は「海で泳いで みたい」との希望があり、又、入居前、プールに通っ ていた利用者は「プールで泳ぎたい」等、それぞれに 意向があるが、個々の現状を踏まえて「どこまで実現 に向けて、近づけるか」ということの検討を重ねてお られる。	管理者は、利用者の思いを「分かったつもりの自己満 足になっていないだろうか」と感じることもあるよう で「利用者の本来のその人らしさを見つめ直す必要 性」を考えておられた。「入居時と認知症が進行した 時点では、興味のあることが違っていることがある」 とも話しておられた。利用者個々の今の思いや願いを 知ることに努められ、さらに利用者らしい暮らしを 支えていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価) 面会時にご家族から利用者のこれまでのことについ て、情報を得られるようにしており、本人とご家族の 理解に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人のペースに合わせながら、出来ることをして もらって、できること・できないことの見極めをして 行っている。常にアンテナをはって、気づきや発見に 努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>3ヶ月に1回ケアプランの見直しをしているが、入居時や急変時は随時話し合いをし、現状に応じたプランを作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画は3ヶ月に1回見直しをして、カンファレンスで職員の意見を聴いて、管理者が作成されている。ご家族にも計画を見せて意見をうかがうようにされている。夢プランについて「自宅に1泊したい」という夢がある利用者がおられ「実現したい」と話しておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>気づいたことには赤ペンで、線を引いてわかりやすくして、次のケアに繋がるような工夫をしている。スタッフ連絡用のノートを活用して情報の共有や意見交換できている。</p>	
			(自己評価)	
		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>現在のところ、サービス多機能化はしていない。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>近所のスーパーに買い物に行ったり、公民館で開かれるイベントに参加したり、なるべく地域社会と触れ合う機会も設けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)  本人希望する病院への受診対応したり、協力病院の受 診対応をしている。	
			(外部評価)  入居時、かかりつけ医について相談をされるが、法人 の病院を希望される方が多い。法人の医師は、毎週の 往診以外にも必要に応じて往診をされている。耳鼻科 や歯科等の通院介助は、ご家族と連絡をとりながら支 援されている。歯科は協力医の訪問診療も受けられて いる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)  異常に早期に気づき、看護師・管理者につなぎ、報告 相談しながら、医師に連絡している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。ま たは、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。	(自己評価)  入院したときには、病状を家族や入院先の病院側から 聴き、ホームで、できることを相談したり、早期に退 院できるように、信頼関係作りに努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  早い段階から、医師を交え家族との話し合いの機会を 設けて、家族の希望も取り入れながら、ケアの方針を 決めている。	
			(外部評価)  重度化した際に話し合いをされているが、入院を希望される より、事業所での看取りを希望される方が多いようだ。ユニット に一名の看護師を配置され、法人の医師は24時間、携帯 電話がつながるようになってきている。ご家族は、宿泊される等、 最期の時を利用者と共に過ごされている。運営推進会議に 看取りの話題があった時、利用者から「自分達にも説明をし てほしい」と要望があった。「利用者にも説明をして、終末期 の希望があれば聞いていきたい」と管理者は話されていた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  定期的には行えていないため、冷静に対応できるように、定期的に学ぶ機会を増やしたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  年2回防災訓練を実施して、災害時に備え身につける努力をしている。地域の方にも参加していただき、協力体制も整えている。	
			(外部評価)  年に2回の避難訓練は、夜間設定で行われている。いざという時、慌てないように 通報機 管理者 近所と手順を定められている。近所の方には、重度の利用者の居室を知らせてあり、避難誘導や屋外での見守りをお願いされている。事業所前の空き地が避難場所になっている。スプリンクラーは、来年度設置予定となっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  柔らかい声かけを心掛けてしている。相手が嫌な思いをしないよう、その人に向けた言葉がけをしている。	
			(外部評価)  利用者の呼び方は、名字で呼ぶことが多いが、一人ひとり「どう呼ばれたいか」が違うので決めず、利用者によっては「じいちゃん」と呼ぶようにしている方もある。ホーム便りやホームページの写真掲載については、入居時に了解を得ておられ、ご家族が見て嫌な気持ちにならないように気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  一方的に決めるのではなく、本人が希望を言えるような、選択できる言葉がけの工夫をして、自己決定ができるよう、働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り本人のペースを大事にしているが、難しいこともあるので、本人の思いを汲み取れるよう努力している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来る方は本人に任せているが、出来ない方には、洋服を選んでもらったり、本人の好みに近づけるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいものを聞いたり、その人にあった食形態にして、食べる楽しみがもてるように心がけている。準備・片付けを職員と楽しみながらしている。	
			(外部評価) 調理の下ごしらえは日によって「出来たり出来なかったり」するので、職員が誘ってみて、判断するようにされている。調査訪問時、食事中、箸が進まない方に、職員が「軟らかくておいしいよ」と勧めておられた。食事が終わると、ご自分で下膳や食器拭きをされる方もあった。メニューは、過去の献立のデータを参考に、利用者の食べたい物や職員からの情報を採り入れながら、管理者が作成されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分・食事チェックをしながら、足りないときは、好きなもので補足したり、栄養補助食でバランスをはかっている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人でできる方には声かけをし、できない方には口腔ケア介助をしている。うがいのできない方は、緑茶を使用して、除菌に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 夜間オムツが必要な方でも、日中はパンツ着用し、排泄パターンなどを見極めて、トイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 昼間はできるだけ布パンツにして、一人ひとりの排泄の間隔や仕草を見ながら、職員が誘導してトイレで排泄ができるように支援されている。夜間は、リハビリパンツに尿取りパッドを組み合わせたたり、ポータブルトイレを使ったり、起きて来られる方は、トイレに誘導する等、個別に支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分や乳製品を摂ってもらい、適度な運動をして、自然排便できるように努力している。それでもでない場合は、緩下剤を使用している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間入浴・日中入浴、本人の好きな方で入浴できるようにしている。拒否のあったときも、無理には入らないよう、入りたくなるよう声かけを工夫している。	
			(外部評価) 現在は、お風呂好きの利用者が多い。昼間・夜間、利用者の希望の時間に入浴できるように支援されている。ただ、職員二人で介助する必要がある利用者は、人手のある昼間に入浴していただいている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人のパターンで休息の声かけをしたり、夜間不眠の方は、状況に応じて休んでもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬についての作用・副作用がケース記録ファイルに用意されており、目を通すことができるようになっている。薬が変更になると、ケアポイントにあげ、症状の変化などの気づきに繋がるよう気をつけている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った、楽しみ・役割を支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る限り、その日の本人の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。 (外部評価) 散歩や買い物等、利用者何名かずつ交代で出かけるようにされている。松山劇場にお芝居を見に行ったり、イチゴ狩りに行ったり、宮島への日帰り旅行等、計画を立てて出かけておられる。海辺に住んでおられた方と海を見にドライブされたり、松山空港に出かけて、以前住んでおられた県の名産物を購入する等、個別の希望に応じた外出の支援もされている。初詣は、近くの日満宮に行っておられるが、管理者は、できれば「ご自宅の氏神様をお参りできるように支援していきたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持をしている方もいるが、実際にお金を使ってはいない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が自ら電話することは少ないが、希望があれば支援していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>音や光の環境を整え、フロアには季節の花を飾り、窓から見える中庭が一望でき、季節感を味わうことができる。廊下には馴染みの写真を貼ったりして、居心地のよい環境を作っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間から一望できる中庭には、お大師様の石像があり、利用者が手を合わせておられる。春には桜が咲くようだ。居間には、テーブル席と大きな画面のテレビとソファが置かれており、利用者は、洗濯物を干したり畳んだり、テレビを見たりして過ごされていた。玄関横には、洋服掛けが置いてあり、利用者の上着をかけておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアが広いので、一人で過ごせる場所もあり、皆と一緒に過ごすことも出来たりと、本人の気分によって、過ごせる場所を選べるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室には使っていた物や、仏壇を持ち込んだり、写真を飾ったりして、個性を出している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>タンスとベッドは備え付けてあるが、ご自宅で使っていたベッドを持ち込んでおられる。テレビ・テーブル・椅子・ラジカセ・蛍光灯スタンド・ぬいぐるみ等も見られ、居室それぞれに雰囲気が違っていた。亡夫と写っている写真やご家族の写真が大きく伸ばして送ってくださるご家族があり、居室いっぱい貼って、ご家族に囲まれているような雰囲気の居室もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>フロアは、バリアフリーで、廊下に物をあまりおかないようにしたり、できること・できないことを見極めながら、支援している。</p>	